

「“配られたカードで勝負するつきやないのさ。”」

マタイによる福音書 18 章 1～4 節

女子聖学院英語科講師 市川 千草

そのとき、弟子たちがイエスのところに来て、「いったい誰が、天の国でいちばん偉いのか」と言った。そこで、イエスは言われた。「はっきり言っておく。心を入れ替えて子どものようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子どもようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。」

おはようございます。私のことをご存じのない方がいらっしやと思いますので、初めに自己紹介をします。私は高2の英語を担当している非常勤講師の市川千草です。5年前の74回生が中3で卒業するまで、担任をしていました。私はずっとスヌーピーが大好きだったので、最後に担任をしたクラスのある生徒が私にこの絵を描いプレゼントしてくれました。スヌーピーと手をつないでいる私の似顔絵です。



私がスヌーピーに出会ったのは、高校3年の時アメリカに留学した時です。そのころはまだ日本にはスヌーピーが紹介されていませんでした。私のホストファミリーのお母さんはスヌーピーが好きで、私の誕生日にスヌーピーのぬいぐるみとピーナツの絵本と辞書をプレゼントしてくれました。それらは今でも私の宝物です。

スヌーピーの生みの親は、チャールズ・シュルツというクリスチャンの人です。彼はピーナツツというタイトルのマンガの中で、スヌーピーとその仲間たち、チャーリーブラウン、ルーシー、ライナス、サリー、シュローダーなどを通して私たちに聖書のメッセージを伝えています。でも世の中の多くの人はただキャラクターがかわいいから好きということで、本来の聖書のメッセージを理解する人はあまりいません。

シュルツさんの書いたピーナツツのストーリーの中に登場するのはこどもだけです。先ほどお読みした聖書の箇所、“心を入れ替えて子どものようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。”にヒントがあります。聖書では、子どもは尊い存在だと言っています。だからシュルツさんは子どもだけ

の世界を描いたのです。

子どもは一般的には大人とちがいがい罪のない純粋な存在と思われがちです。法律でも子どもであるがゆえに罪が軽くされることがあります。でもシュルツさんは、子どもは罪深い存在だとピーナッツを通して言っています。聖書も同じです。人は生まれながらにして罪人であるという考え方です。このピーナッツの中に出てくる子どもたちもみんなお互いに罪を犯します。聖書がいう罪を原罪と言います。原罪とは法律を犯すという罪ではありません。神様なんていないと言い、自己中心的に生きていくという罪のことです。自己中心であるから、人のことをうらやましがったり、嘘をついたり、悪口を言ったり、そしてそれがエスカレートすると人の物を盗んだり、人を殺してしまったりということになってしまうのです。私には今2歳の孫がいますが、最近親に反抗するようになりました。ダメと言われても、その言葉に従いません。思うようにならないと大きな声で泣きわめきます。母親である私の娘は、我が子にちゃんと育てほしいと思っていますが、誰も教えてもないのに、嘘をついたり、悪さをしたりします。それを見ていて、こどもも罪人なんだと思います。

ピーナッツの中にルーシーという女の子が登場しますが、典型的な自己中心の子です。

ルーシー：“そもそも、あなたの何がいけないのか知ってる？チャーリーブラウン？”

チャーリー：“いや、でも知りたくない。ほっといてくれ！”

ルーシー：“何がいけないのか、聞こうとしないのがそもそもいけないのよ！”

人の話を聞こうとしていないのは、ルーシー自身だと言うことがわかります。なぜならチャーリー・ブラウンは“ほっといてくれ”って言うのに、後を追いかけて行って、“聞こうとしないのがいけない”と言うのです。

このマンガには続きがあって、チャーリーブラウンが“じゃあ、君は人生の意味を分かっているの？”と尋ねると、“私のことを話してるんじゃないで、あなたのことを話しているのよ。”と言うのです。人はとかく、自分のことを棚にあげて、周りの人の欠点ばかりが気になります。皆さんにも心当たりがありませんか？

まさにルーシーは自己中心です。でもルーシーだけが罪人ではありません。私たち全員が自己中心で罪人なのです。

ルーシーはスヌーピーにも辛辣な言葉を投げかけます。

ある日、ルーシーがスヌーピーに“時々私はあなたがどうして犬なんかでいられるのか不思議に思うわ。”と皮肉たっぷりと言います。するとスヌーピーは“配られたカードで勝負するっきゃないのさ。”“それがたとえどういう意味であれ。”と言います。“犬じゃなかったら良いのに”なんて思わないのです。自分の与えられた立場をよくわきまえて、精一杯それを生き抜くと言うんです。犬は従順でへりくだっていつも飼い主に服従します。私も犬を飼っていますが、私が朝起きると、うれしくて顔をペロペロなめてきます。仕事から帰って来るとシッポを振りながら、玄関まで迎えに来ます。毎日毎日飽きもせずいつも嬉しそうに接してくれます。飼い犬に手を噛まれるということわざがありますが、たいいていの犬は決して飼い主を裏切りません。ほかの物に見向きもせず忠実に飼い主に従います。

犬であるスヌーピーはピーナッツの中でイエス・キリストを表しています。イエス・キリストは父なる神

様に従順に従い、十字架の上で私たちのために死んでくださったからです。神様から与えられた使命を十字架の上で果たしてくださったのです。

犬は愛と忠実と用心深さと勇気というすばらしい特質があるので、信仰のシンボルとなることが多いのです。でも信仰のシンボルとなっているとは、人は神さまの前で犬のように忠実に仕える、という意味があるのです。犬のように身を低くして、へりくだって主人に仕えるというような従順さと謙虚さを身につけなければいけないのです。女子聖学院の精神と同じです。

Love God and Serve His People 神を仰ぎ 人に仕う。

スヌーピーは自分の犬小屋の赤い屋根の上でいつも寝ています。

どうして小屋の中に入って寝ないんでしょうか？ それは、自分のご主人であるチャーリーブラウンを見守るためなのです。

スヌーピーは犬というカードを神さまから配られました。では、私たちにはどんなカードが配られているのでしょうか？ 神さまはひとりひとりに一番合ったカードを配ってくれます。それは自分の期待通りのカードではないかもしれませんが、でも、配られたカードで正々堂々と勝負をしてほしいと神さまは思っているのです。

私たちも、ルーシーやスヌーピーから学ぶことがたくさんあると思います。もし興味があったら、図書館に“スヌーピーたちの聖書のはなし”という本がありますから、ぜひ読んでみてください。お祈りします。

天のお父様、いつも私たちに生きるための必要を満たして下さって、ありがとうございます。私たちにはみんな自己中心の思いがあり、時として、人を傷つけたり、人のことをうらやましく思ったりします。そんな罪深い者ですが、私たちが神さまから配られたカードを感謝して受け入れ、一生けん命前を向いて進んでいくことが出来るように導いてください。戦争や自然災害などで苦しむ人たちの上にどうか神さまの慰めと癒しがありますように。この祈りを主イエス・キリストのみ名によって御前におさげします。

アーメン

2024年9月30日 女子聖学院高校チャペル礼拝